

日本化学会会長メッセージ
(株式会社三菱ケミカルホールディングス 取締役会長) 小林 喜光

現在の社会においては、「グローバル化」「デジタル化 (AI 化)」「ソーシャル化」の3つの大きなうねりの中で、既成概念が覆されるような急激な環境変化が起きています。米国、英国に代表されるポストグローバル化への波、GAF A や BAT を中心にした世界的なデジタルプラットフォームの台頭、AI や量子技術の急激な進歩など、時代は革命期に突入していると言えるでしょう。そして我々の目の前には、気候変動問題、海洋プラスチック問題、食糧・水問題などに代表される世界的規模の解決すべき課題が山積みされており、そのうえ昨今の新型コロナウイルスの世界的大流行により世界経済は大きく低迷し、生活様式も大きく変革しようとしています。このような時代の変化に鋭敏に対応し、これらの世界規模の課題への解決策を提供していくことが、「化学」に最も期待されていることだと考えています。



これまで、化学産業は大気や海を汚染するものの代名詞のように扱われてきましたが、その反省を活かすことで、青く澄んだ海やホテルが生息するきれいな淡水や空気を取り戻すことができました。つまり、化学産業は自ら招いた環境破壊に対し、自らの経験と技術を活用して solution provider としての役割を果たしたのです。「化学」の力をもってすれば、世界規模の課題に対しても必ずや解決策を見出すことができるでしょう。そのためにも、以下を実現できるような環境を整備し、新たなイノベーションを産み出す「場」を提供できるよう、日本化学会としての活動を推進していきたいと考えています。

1. 最先端の研究活動を継続的に推進し、新たなイノベーションの種となる化学的発見・技術開発を加速する。
2. 研究成果を実装するために異領域 (学問間、産学官、国内外) との連携・融合など (オープンイノベーション) が重要であることを認識し、自らの研究活動を推進する。
3. 次世代を先導していく化学系人材を育成するとともに、日本の研究環境をより魅力的なものへと発展させる。

これらを実現するためには、「化学」の叡智を結集することも必要であり、そのために化学系の学協会同士の交流もさらに深化させるべきだと考えています。日本化学会では5部会 (コロイドおよび界面化学部会、ケモインフォマティクス部会、生体機能関連化学部会、バイオテクノロジー部会、有機結晶部会)、5研究会及び21ディビジョンによって化学関連分野全体を網羅し、異なる分野間の横断的研究や境界領域の研究の場を提案しております。地球規模の課題を解決するために分野を跨いだ知見の必要性がますます高まってきており、異分野の学協会との連携を今まで以上に促進していきたいと考えています。日本化学会のこの考え方に賛同いただくと共に、日本化学連合には、化学系学協会間連携の推進、ひいては学協会の垣根を越えたオープンイノベーションの推進を期待しています。